

3.1.1 【報告1】

知立市早期適応教室 「かきつばた教室」

知立市早期適応教室指導員
NPO法人みらい 代表理事
越智 さや香



愛知県知立市について

- ・人口 72,727人
- ・外国籍人口5,837人(8.0%)

(R8年1月1日現在)

小学校7校
中学校3校

- ・市内すべての小中学校に日本語指導が必要な児童生徒が在籍をしている。
- ・集住と散在両方の状況がある。



IR知立団地



知立市立知立東小学校

活動歴

早期適応教室（学校教育課）

- 2007
 - ・ 愛知県プレスクールモデル事業
 - ・ プレスクール指導員
- 2008
 - ・ かきつばた教室開室
 - ・ 早期適応教室指導員
- 2010
 - ・ 語彙調査開始
- 2011
 - ・ プレスクール開始
- 2024
 - ・ 花しょうぶ教室立ち上げ

NPO法人みらい（地域）

- 2009
 - ・ 学習支援教室みらい立上げ
 - ・ 代表（2014年NPO法人化）
- 2013
 - ・ 多文化親子サポート事業
 - ・ 県の事業を受託 2016～2019
- 2021
 - ・ 多文化子育てサロンみらいJr.
 - ・ 市の委託事業へ
- 2024
 - ・ みらいにほんご+開室

- 課題 1 地域で子どもたちをサポートする場所がなかった。
→「学習支援教室みらい」立ち上げた。
- 課題 2 小学校に入学するまで新1年生の日本語の実態がわからなかった。
→保育園・幼稚園を巡回し、年長児の語彙調査を実施した。
(語彙調査…愛知県プレスクール実施マニュアルより)
- 課題 3 未就園の子どもたちは事前情報や支援がないまま入学していた。
→かきつばた教室で未就園児を対象にプレスクールの開始した。
- 課題 4 就学前よりもはやい段階に必要な情報が家庭に届いていない。
→多文化親子サポート事業みらいJr. (現・多文化子育てサロンみらいJr.) を開始した。
- 課題 5 日本語の初期指導が必要な子どもたちを地域で十分に支えられていない。
→みらいにほんごプラス開室。

課題と向き合うヒント

- まずは小さな取り組みから、できることから始めてみる。
→ 成果を発信する。
- 学校にいることの強み、地域にいることの強みを生かす。

学校にいることの強み × 地域で活動することの強み

- ・ 子どもの状況を日常的に把握
- ・ 学習面・生活面での継続的な支援
- ・ 教員との情報交換がしやすい
- ・ 学校の支援体制が把握できる

- ・ 地域とのつながりができる
- ・ 地域で子どもを育てる視点の具体化
- ・ 就学前から長い期間子どもを見守ることができる

3.2.2 【報告4】

知立市早期適応教室
「かきつばた教室」

知立市早期適応教室

かきつばた教室 (2008年～)
花しょうぶ教室 (2024年～)

- 対象：知立市内の小中学校に転編入する日本語がわからない児童・
- 生徒で、在籍校の校長と保護者が協議して通室を認めた児童生徒
- (在籍校出席扱い)
- 期間：3か月を目途に修了
- 場所：かきつばた教室 (知立東小学校内)
- 花しょうぶ教室 (知立南中学校内)
- 費用：授業料なし
- スポーツ振興センター掛け金、給食費、教材費は保護者負担
- 指導者：指導員5名 (会計年度任用職員)
- 通訳1名 (フィリピノ語)

かきつばた教室の時間割

- 主な学習内容

- ・日本語
- ・算数
- ・文字
- ・体験的な学習
(生活、図工、体育、学活など)

1 がつ 26 にち きんようび

Period	Time	Subject
1	8:50 ~ 9:35	こくご
2	9:45 ~ 10:30	さんすう
		ながほうか ほうか
3	10:50 ~ 11:35	もじ
4	11:45 ~ 12:30	こくご
		きゅうしょく そうじ ひるほうか
5	13:55 ~ 14:40	さんすう
	15:00	げこう

学校生活

- 一日の学校の一日の流れ
- 学校のきまり
- 給食
- 掃除
- 当番

挨拶をする。
自分の名前がある靴箱に靴をいれる。
上靴と外履きを正しい場所にいれる。
自分のものを自分で片付ける。
道具箱（机の中）を整頓する。
宿題を提出する。
名札をつける。
ファイルにとじる。
授業の前にトイレをすませる。
トイレでは上靴をそろえてぬぐ。
スリッパをそろえる。
トイレの後は、手を洗う。
手を洗ったら、ハンカチでふく。
手の洗い方。
廊下は静かに歩く。
待つ。
並ぶ。
並んで歩くときは、ぬかささない。
階段をジャンプして降りない。
チャイムをきいて行動する。

ポケットに手をいれて歩かない。
持ってきてよいもの。持ってきてはいけないものを知る。
いい姿勢で話をきく。
名前を呼ばれたら、返事をする。
授業中立ち歩かない。
手を挙げて、発表する。
運筆
はさみの使い方。渡し方。
のりの使い方。
色をぬる。（はみ出さないように意識して）
プリントを半分に折る。
友達とルールをまもって、楽しく遊ぶ。
絵本の読み聞かせを楽しむ。
連絡ノートに次の日の時間割を書く。
自分で帰る支度する。（上着の着脱など）
友達や先生に挨拶をして帰る。
鉛筆は家で削ってくる。
宿題をする。
手紙を家の人にみせる。 など

日本語指導

教材：自主作成教材

① サバイバル日本語（約3週間～1か月）

② 文型学習（約2か月）

にほんごⅠ(サバイバル日本語)で学習する内容

- 号令(起立、気を付け、礼、着席)
- 挨拶
- いい、だめ
- えんぴつ、けしごむ
- ある、ない
- わかる、わからない
- きて、みて、きいて
- いる、いない
- ぼく、わたし、かぞく
- おなじ、ちがう
- こう、そう、ちがう
- これ だれの?
- からだ
- うえ、した、みぎ、ひだり、まんなか
- きのう、きょう、あした、
- なんようび、なんにち、てんき
- わすれた、かして、ありがとう
- おおきい、ちいさい
- たべる、のむ
- いる、いない
- べんきょう(教科名)
- とけい(~じ~ふん)
- かず(0~999)
- 数字の書き方

にほんご | (サバイバル日本語) 「いい・だめ」



学校生活の「いい・だめ」が分かる。

にほんご！(サバイバル日本語) 「こう?そう・ちがう」



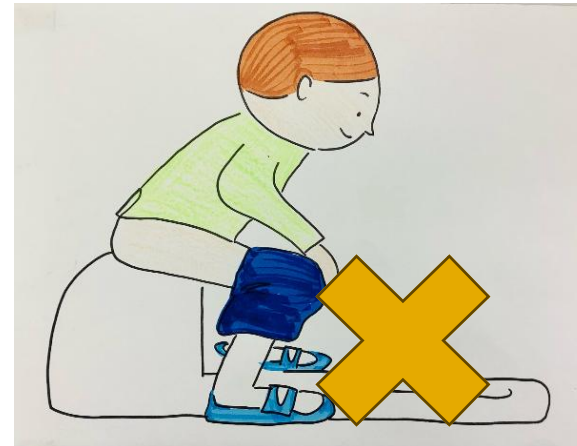
①



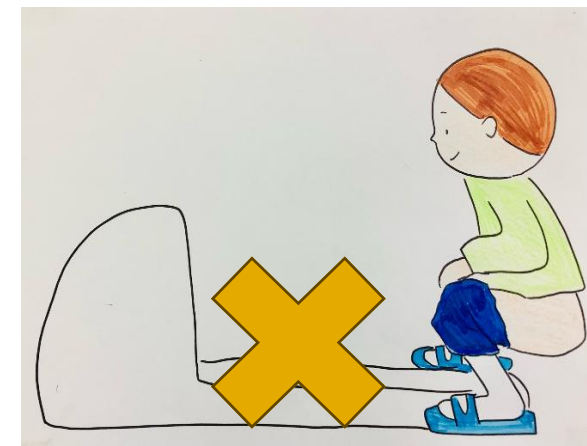
②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



サバイバル日本語

- 視覚支援、語彙コントロール
- 「聞く」「話す」中心の指導
- 学習したその日からすぐに使える日本語指導

にほんご2（文型指導）

- 発話練習＋書く練習
- 生活に結び付いた発話を促す
- 学年や個々にあわせて

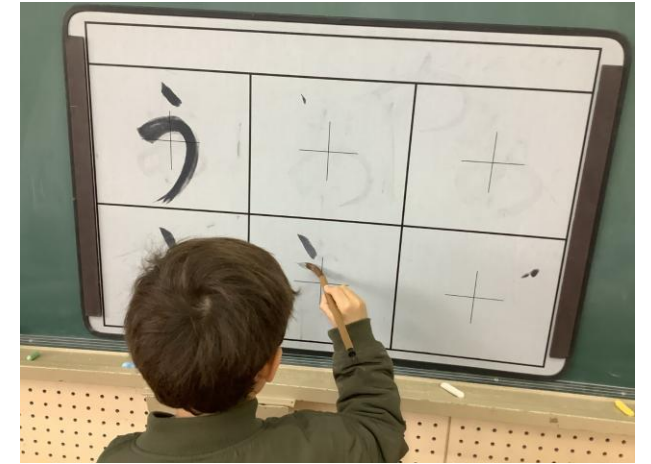
語彙の学習

- 家庭学習（語彙カード）
- 絵本、手遊び、うた、ゲーム
- 掲示

●

文字指導

- ひらがな（約3週間～1か月）
- カタカナ（約2～3週間）
- 漢字



課題

- 在籍校との連携

→今年度より在籍校登校を開始。

- 入室児童数が事前に把握できないため、計画を立てにくい。
- 入室時期、学年、成育歴が異なる子どもたちへの指導。

→目の前の子どもにとっての最善をその都度検討。

最後に

早期適応教室は、

- 緊張している子どもたちが安心して過ごせる場所
- 保護者が信頼して、子どもを通わせられる場所
- 在籍学級（学校）にとっても、通室中の子どもの成長が分かり、在籍学級の生活につなげていくことができる場所



ご清聴
ありがとうございました

知立市早期適応教室（かきつばた教室）

✉ kakitsubata@katch.ne.jp